

TBC (Ver5.60)

静止測量・連続キネマティックによる観測結果の解析

簡易 GUIDE



2022年2月

目次

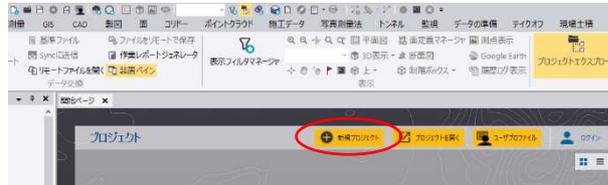
1. 準備.....	3
2. 静止測量データを解析する	4
3. 連続キネマティックデータを解析する.....	7
4. 座標をエクスポートする	8

1. 準備

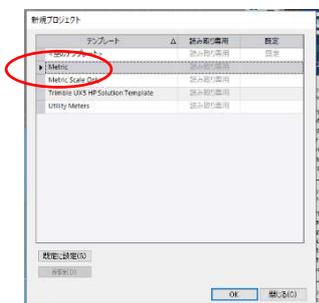
静止測量した観測ファイルの他に、基準点とする観測ファイル（ex.電子基準点データ）を準備します。

(1) TBC を起動しプロジェクトを準備する

「新規プロジェクト」をクリックします。

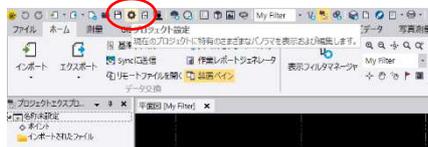


「Metric」を選択し「ok」をクリックします。



(2) 座標系を設定します。

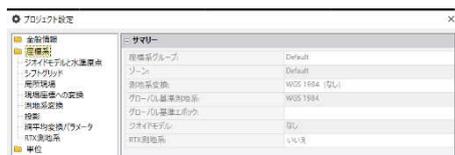
メニューバーからギアアイコンをクリックします。



ツリー項目から「座標系」を選択し、処理する座標系に設定します。



座標系その他、ジオイドモデルの設定ができます。



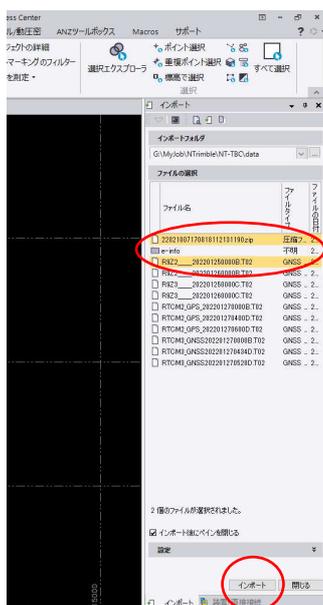
2. 静止測量データを解析する

(1) 観測ファイルをインポートする

リボン「インポート」をクリックします。



(2) 右端に表示される画面から格納先を指定し、表示された一覧からインポートするファイルを選択します。



(3) 下部の「インポート」をクリックします。

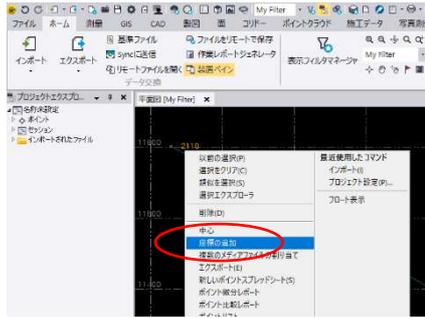
しばらくすると、インポート内容が一覧表示されます。



(4) 必要に応じて左側「インポート」欄でインポート有無を設定しインポートします。

(5) 基準点に正確な座標を設定する。

基準点にするポイントを選択し、右クリックして表示されるメニューから「座標追加」を選択します。



(6)画面右部に「座標の追加」画面が表示されます。

座標タイプから入力するタイプを選択し、各項に値を設定します。

水平・垂直値入力欄右のアイコンから入力値の質を設定します(ex.基準点の質)

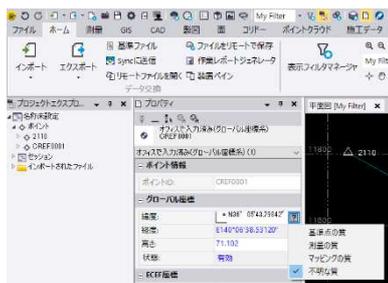


上図は WGS84 系による入力し、基準点の質を設定しています。

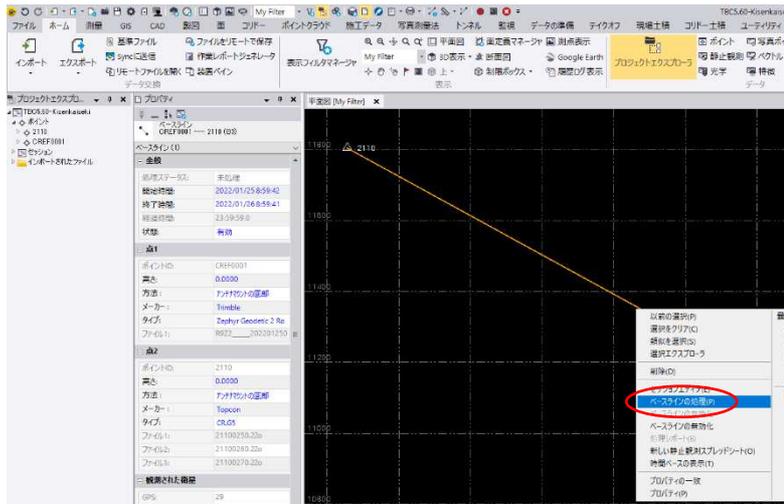
(7)下部の「ok」をクリックして決定します。

設定したポイントマークが△表示に変わります。

※計算するポイントが△表示の場合、そのポイントのプロパティを表示させて、点の質を「不明な質」にしてください。



(8)解析する基線を選択し、右クリックして表示されるメニューから「ベースラインの処理」を選択します。



(9) 基線解析が始まり結果が表示されます。



「設定」ボタンから使用する衛星・周波数等の設定ができます。
 (10) 「保存」をクリックして座標を確定します。

3. 連続キネマティックデータを解析する

(1)基準局データをインポートする

静止測量と同様の方法で観測ファイルをインポートします。

基準局の値を設定してください。(ポイントが△表示になります)

(2)移動体側の観測ファイルをインポートします。

ファイル選択画面画面下部の「設定」にある「キネマティックを強制」を「はい」に設定して、インポートします。



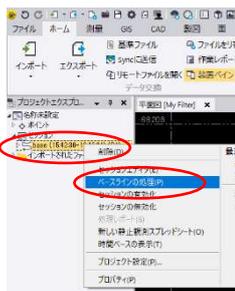
インポート画面で移動側の観測状況が一覧されます。

ポイント ID が「連続セグメント」になっていることを確認してインポートします。



(3)解析する

左画面 (プロジェクトエクスプローラ) にある「セッション」欄から解析するセッションを選択し、右クリックして「ベースラインの処理」を選択すると解析が始まります。

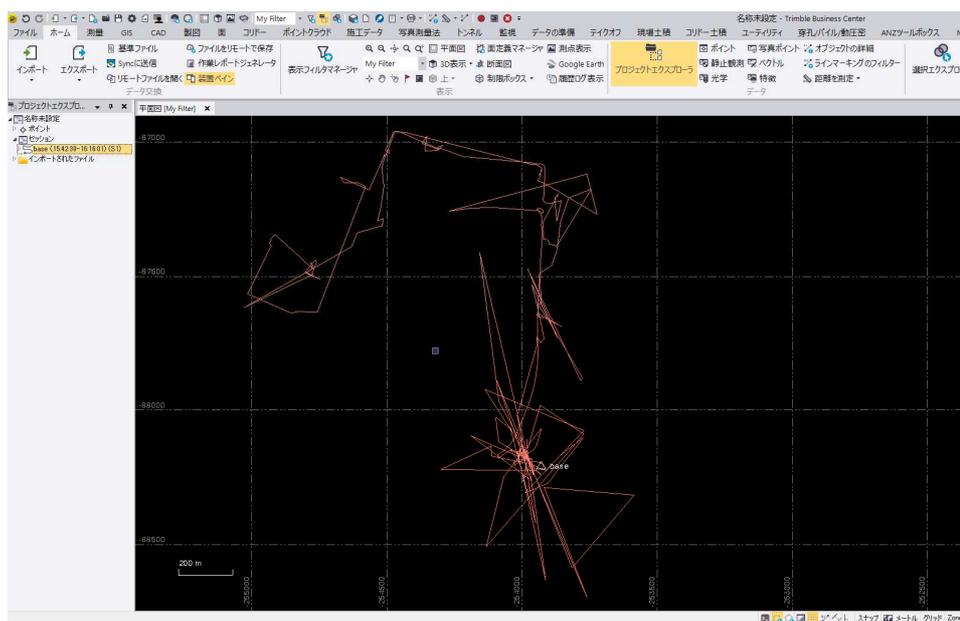


解析後、右図画面が表示されます。



「保存」をクリックして結果を保存します。

移動奇跡が表示されます。

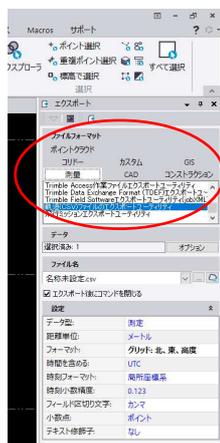


4. 座標をエクスポートする

(1)出力するポイントを選択し、リボン「エクスポート」を選択します。

軌跡座標をエクスポートする場合、その軌跡を選択します。

(2)右画面(エクスポート)のファイルフォーマット一覧からエクスポートタイプを選択します。



座標出力の場合：「カスタム」 - 「ex. P,N,E,elev,~ (点名,北距,東距,高さ,~)」

軌跡座標出力の場合：「測量」 - 「軌跡(CSV)ファイルのエクスポート～」

(3)データ欄に出力先パスとファイル名を設定し「エクスポート」をクリックして出力します。